

平成26年度 京都市立朱雀第三小学校

学校教育目標・学校経営方針

学校教育目標

協働、挑戦、前進

めざす子どもの姿(めざす子ども像)

① 自らの可能性に挑戦する子ども

基礎・基本の学力を身につけた子ども

問題解決能力、コミュニケーション力、プレゼンテーション能力のある子ども、わかる、できる、楽しいと学習に喜びを見いだせる子ども

② 温かい心をもった子ども

みんなのために行動する子ども

互いを尊重し合う子ども

自己有用感をもった子ども

③ 健やかな体をつくろうとする子ども

逆境に負けない、たくましい心や体を作ろうとする子ども

心・体・いのちを大切にする子ども

よりよい健康習慣を身につけ、いきいきと学校生活をおくる子ども

めざす教職員の姿

- ・チームワークを重視し、組織で動く教職員
- ・愛情と厳しさをもって子どもたちを育む教職員
- ・自らを変容させ、力量を高め続ける教職員

めざす学校の姿

(一体感のある学校)

- ・学校はみんなで作る一つのチームであり、子どもはもちろん、教職員一人一人がチームのメンバー兼サポーターです。子どもたちにプラスになる情報を共有し、子どもたちのために生かしましょう。

(誇りを持てる学校)

- ・学校に関係するすべての人々が、この学校を誇りに思い、心温まる「ふるさと」であり続ける学校にしましょう。

(地域の良さや強みを生かす学校)

- ・地域にある人材や文化、歴史の良いところから学び、子どもたちに伝えていきましょう。

学校経営方針

**Be positive
For the team
Change ourselves**

そんな学校にするために…

あいさつ 笑顔 コミュニケーション 相手をきちんと見て、基本的に笑顔で話しましょう。

気配り 目配り 心配り 人の役に立つことを「喜び」と感じましょう。

段取り スピード タイミング 気づいたそのときに行動しましょう。

時間を守る・約束を守る 何かのせいにしないで、かっこよく仕事をしましょう。

そしてもちろん 健康！ 教職員の元気と笑顔が子どもたちの元気と笑顔のもとです。

日常的な心がけ…社会人として心がけたいこと

*チームワーク

朱雀第三小学校の教職員は一つのチームです。それぞれの能力を高めながらも絶えず連携を取り合い、チームとして子どもを伸ばしましょう。

*電話応対

校名と名前を名乗る。「はい、朱雀第三小学校 ○○と申します。」をスタートに。

*来校者に

気持ちの良いあいさつを。保護者・地域の方だけでなく、もちろん業者の方々にも。

「ご用は伺っておりますか」などの声かけを。

これらのことばマナーとしても、安全面からも重要です。

*服装

T P Oに合わせましょう。

体育の時には体操服に。

儀式的行事・授業参観・他校への訪問・出張研修・定例家庭訪問など、

「我々の背中を子どもたちが見ている」意識を忘れずに。

*子ども、保護者への言動

担任は一日一度、すべての児童に声をかけることを心がけて。

担任外の教職員も一人でも、一言でも児童とのコミュニケーションを。

「子どもや他の人から学び続ける」謙虚な姿勢で。

*欠席、問題行動はもちろん、いろいろな情報の連絡…校内でも、保護者の方にもていねいに。

最も大事なのはスピードとタイミング。電話よりも保護者の顔を見て。

問題行動・けがの場合、

正確な情報収集→情報の共有（校内連絡の徹底）→正確な説明を。

担任 学年 生徒指導主任（養護教諭）教務主任 教頭 校長にも。

情報は重なっても繰り返されてもOK。「知ってはるやろう」が大敵。

保護者の要求、不満などもまず「聴く」ことから。

判断に迷う場合は、あせらず相談してから。ベテランの力を借りましょう。
みなさんは一人ではありません。必ず守ります。

*報告・連絡・相談・お礼

報・連・相は当然ですが、誰かに世話をになっていることが多いはず。
(ホウレンソウ レイ)と覚えて、きちんとお礼を言いましょう。
心をこめて。

*期限を守る

提案文書、報告文書、提出物は期限内に提出しないと、誰かに迷惑をかけることになります。
守れると気持ちいいものですよね。そのために「段取り」を考えましょう。

*教育環境を整える

「どこかを美しくしてみよう」と思うと、清掃や作業が楽しくなります。
そのことが児童の意識や行動につながっています。

○「自らの可能性に挑戦する子ども」の育成に向けて（研究を核として）

- ・学習集団づくり
- ・指導と評価のスパイラル
- ・言語活動の充実（話し合いの内容を重視）
- ・「（仮）こども博物館」を中心とした、知的好奇心を高める取組
- ・支援の必要な児童への学力面でのフォロー

☆校内研究で大切にしたいこと

- ・年間1人2授業以上の公開と、事後研究会の充実を中心に据え、日常的で「子どもに返る」研究の取組を進める。
- ・研究テーマおよび「めざす子どもの姿」を常に意識して日々の授業に取り組む。
- ・学年会の中に研究を位置づけ、学年内で共通しためあてのもと、共通した取組を展開する。

○「温かい心をもった子ども」の育成に向けて（生徒指導を核として）

- ・支え合い、高め合う集団づくり
- ・規範意識の育成、道徳教育の充実
- ・地域文化、伝統文化を重んじる教育の展開

☆生徒指導で大切にしたいこと

- ・子どもたちが学校生活の数々の経験の中で、多くの人々との関わりから「人とよりよく関わり、共に気持ちよく生きるためにルール・マナー」を学習することで自分らしく主体的に行動することを目指す。
- ・問題発生の未然防止の観点を重視し、「全教職員で全児童をみる」意識と実践を大切にする。
- ・「不登校傾向」および「児童虐待の疑い」の問題に対しては保護者との連携を図りながら、チームとして取り組み、共通理解のもと、関係諸機関とも連携をとりながら問題解決に向かう取組を積極的に進める。

○「健やかな体をつくろうとする子ども」の育成に向けて（健康・安全・食・防災の各教育を核として）

- ・「健康教育」特に「基本的な生活習慣のさらなる向上」について重点をおく。
- ・「安全教育」危険を予測し、危険に適切に対応できる能力を育成する取組を展開する。
- ・「食育」児童…望ましい食習慣を養う。
教職員…食物アレルギー・アナフィラキシーに対する正しい知識を身につける。
- ・「防災教育」自らの命を守り抜くための「主体的に行動する態度」の育成を目指す。